

特集

動物（犬・猫）と暮らす

〈犬猫を家族として暮らしている方、保護犬や地域猫と関わっている方、人と動物（今回は野生動物や家畜を除く）との関わり方や動物の幸せについての、様々なエピソードやお考えを自由にご投稿ください〉と、山波財団の機関誌で原稿を募集しました。いただいたご投稿まことに有難うございました。ここに到着順に掲載させていただきました。

ねずみ

ねずみを苦しめてごらん

そのために世界の半分は苦しむ

(…)

そのようにして

一切のいきものをいじめてごらん

そのために

世界全体はふたつにさける

(…)

ふたつにさける世界のために

私はせめて億年のちの人々に向って話そう

ねずみは苦しむものだ

ねずみは血をはくもののだと

(…)

『村上昭夫詩集 動物哀歌』「ねずみ」より



テリーとの思い出

鹿児島県 松下恵子

テリーと初めて出会ったのは、一九九三年の夏七月十一日のことでした。

体長二十五センチ位で犬種はヨークシャテリアだと思えました。毛がもつれていてとても汚れていました。気は荒かったです。

きつと飼い主さんが捜していらつしやると警察に届けました。警察官の方が飼い主が見つかるまで預かってくださいとの事で娘が毎日のように犬を飼いたいと言っていたので連れて帰ることにしました。家に連れて帰りお風呂で洗っていると後足を触るととても痛がったので良く見てみると糸の通った針で後足の柔い部分を縫って白い糸でぐるぐる巻きにしてありました。心配で動物病院に連れて行きました。その時は幼犬だと獣医さんがおっしゃっていました。名前は犬種がヨークシャテリアだったのでテ

リーと名付けました。娘がとても喜んで、一九九四年一月十一日までテリーの飼い主さんが見つかりはしないかと毎日電話がなかったか聞いていました。

家の犬になるまで六カ月体調を崩すことが多く友達に紹介していただいた動物病院に連れて行き心臓が悪く年齢は十歳位だということがわかって来ました。薬も飲まさないといけない位悪かったです。

六カ月しても飼い主さんが見つからず家の犬になりました。娘は大喜びでした。

後日わかったのですが、テリーは繁殖犬で病気になるので捨てられたのではないかと思えます。しつけはしてなく、えさは人間の食べる物を食べさせられていて、トイレは閉じ込められているのでその



テリー



場で。地獄のような生活を人間にさせられていたようです。

家の犬になってから二〇〇一年五月二十一日までがなばって生きてくれました。家族を癒してくれました。心から感謝しています。

他界する前は、体重1・5kg〜1kg近くなり大好きなバナライイスと焼きいもは少しづつ食べてくれました。あまりにも苦しそうなので神様にお祈りする日々でした。

夢の中で三人の方が出て来られて真中の方が「もう連れて行っても良いか。」と尋ねられました。私はその方の前に正座して「こんなに苦しそうなので連れて行ってください。」と泣きながらひれ伏していました。それから数日後に他界しました。

他界してからテリーの夢を見ました。

家の居間を七色に輝くテリーが先頭にいろいろな犬種の犬が一列になって楽しそうに練り歩いて玄關の外に出て行きました。その時なんとも言えない楽しい音楽が聞こえて来ました。

後日でくのぼう出版から発行されています

『シルバー・バーチに聞く』桑原啓善 編著の中に

83 動物の群魂

〔注〕群魂とは、一つの魂にたとえば百匹の犬が所属していたり、その魂の一部をうけて犬や動物が出生し、死ぬとまたその中へ戻って同化する、いわば魂の一個のプールのようなもの。群魂が進化するると一群魂を土台に人間の霊が宿ると一人の人間となる。(略) 人間が動物を愛することで飛躍的に動物は愛に反応できるようになって、やがて一個の群魂が一人の人間となる土台ができる。

このように書いてありました。

テリーがこの事を教えてくれたと思いました。今でも私の心の中でテリーは生き続けています。人間の愛はすごいと思います。人間の愛でたくさん動物たちが救われますように。

私事で恐縮ですが、娘は犬の訓練士になり大好きな犬達に囲まれて暮しております。

動物と暮らす

愛知県 上梨多香子

わが家には犬が2匹います。この子達はいつも愛と癒しをくれる存在です。以前この子達を見ていて何度か感じたことです。ふと、この子達を見ると私達をジーと見ています。そしてある時は、私が忙しくしていると何か言いたくても我慢していました。私達の言葉も心も伝わっているのだと思いました。この子達の幸せを考えれば考えるほど自分自身の至らなさを感じます。この子達には感謝しかありません。

いんぐりさん達のこと

先日、NHK Eテレを見ていたら外国の人に日本の嫌いなどころはどこですかと聞いていました。外

国の人はアニマルカフェですと答えていました。理由は、ふくろうが足を縛られて飛べないようになっているからですと話されていました。

私は一年くらい前だったと思いますが、気分転換にと思い、山の方へ昼食に行った時のことです。そのお店はカフェではなく和風のお店でした。ふくろうさん達は店の出入口にいました。見ていたらTの字の棒に片足を縛られて棒に止まっていました。家に帰る途中、帰って来てからふくろうさん達のことを思うと、あれはおかしい、してはいけないと思いい、申し訳なく思いました。

動物さん達の幸せとは、すべての動物さん達の幸せとは、すべてのものの命は1つ、世界が全体幸福になる事だと思えます。少しでも何かお役に立てるように努力して行きたいと思えます。